

可児市議会事業別評価シート(外部評価シート)

外部評価者 名城大学昇ゼミ、NPO法人縁塾

1. 事業概要(事業実施前に議会で記入)

事業名	議会報告会
実施日	令和元年5月11日(土)・12日(日)・13日(月)
場所	下恵土・土田・桜ヶ丘・兼山地区センター
目的	議会全体として審議の内容や過程等を市民に説明するとともに、市民から意見を伺い、議会運営の改善、政策提言等に反映させていく。
主な内容	<ul style="list-style-type: none"> 議会だよりを活用して、予算等に関する審議の内容や過程等をわかりやすく説明し、それに対する意見交換を行う。 今回の報告会のテーマ「災害への備え」に関する意見聴取・意見交換を行う。 その他、地域課題等について意見聴取・意見交換を行う。

2. 評価指標(事業実施前に議会で設定)

指標内容		単位	30年度春	30年度秋	元年度春
			前回目標	前回目標	今回目標
			前回実績	前回実績	今回実績
成果指標	説明が分かり易かったと回答した割合	%	75	75	75
	意見交換して良かったと回答した割合	%	69	73	73
参考値	参加者数	人	100(5会場)	100(5会場)	80(4会場)
			86	68	75

※成果指標(アウトカム)の設定が難しい場合は、参考値として活動指標(アウトプット)を記入。

3. 評価項目・評価結果

項目	一次評価(自己評価)		二次評価(外部評価)			
	評価理由等	評価	名城大学昇ゼミ	評価	NPO法人縁塾	評価
事業の目的や内容、評価指標等が事前に全議員に共有されていたか。	議会報告会実施会議、議会全員協議会等を通じて、目的、内容、成果指標等について、全議員で共有した。	A	事業目的は全議員共有されていた(一次評価より)。	B	左記一次評価(自己評価)のとおり、多くの機会を通じて情報の共有が図られているといえる。	A
市民の参加を促すための周知活動は十分に行われたか。	議会広報、PRチラシ、自治会回覧板、議会ホームページ等でのPR活動や自治連の会合等で直接依頼するなど参加依頼をした。	A	参加したいと思わせるPRが必要。若年層の参加が必要。	B	前回のアンケート結果から効果が高いといえる自治会回覧板や議会だより等を使用した周知活動を継続したことは良かった。一方で大学教授から講評の際にも指摘のあったとおりで参加者に年齢や性別の偏りが著しくみられたこと、評価指標が目標値を下回っていることから、新しい層へのアプローチ手法の開拓の必要性が高いといえる。	B
議員からの説明は市民にわかりやすいものであったか。	議会だよりを使って、分かりやすい説明に努めた。	A	質問に対し答えに窮してもほかの議員に確認し、分かりやすく説明していた。	A	議会だよりに載っていない情報も加えながら工夫した説明がされており、市民は時よりメモをとる様子が見られた点は良かったといえる。	A
市民が話しやすい雰囲気や進行により、多くの意見聴取に繋がったか。	各グループで、参加者の状況に合わせ話しやすい環境づくりに努め、和やかな雰囲気の中で意見をいただいた。	A	双方が話しやすい雰囲気づくりで、全員がしっかりと話せるよう進行されていた。	S	議員個人の力量に差があるように感じられる場面もあったが、全体の雰囲気は時間が経つにつれ良くなっていったように感じられた。	A
時間配分、テーマ設定等は妥当であったか。	時間配分は、できる限り質疑や意見交換につとめ妥当であった。テーマ設定は身近なものであり、妥当であった。	A	長すぎず、色々な話が出てきてよかった。	A	多少の時間オーバーがあった点は改善の余地があるが、活発に意見交換がされていたといえる。	A
聴取した意見について、市民への公表や、議会で取り組むべき課題か判断するなどの対応は行われたか。	いただいた意見を取りまとめ、ホームページで公表している。また、いただいた意見を常任委員会の所管毎に振り分け、協議している。	A	市民からの指摘に理解ある回答ができないところがあった。	B	各グループで出た意見はその場で丁寧に公表されていた。一方で、参加していない市民に対する公表の手段としてホームページだけでは十分とは言えない。参加を促すための周知活動と同等かそれ以上の取り組みを期待したい。	C
総合評価	地域課題の掘り起こしや自治会加入等の長年の課題について、市民の意見を聴取できた。市民福祉の向上に取り組むための議会活動であり有意義なものである。	A	市民一人一人の不安が一つでも解消されるように、より明確な回答を求める必要がある。	B	市民から直接意見を聴けるという点は大変有意義な事業であるといえる。一方で、掘り起こした地域課題等の解決に向けてどう取り組んでいくかが事業の目的なので、目的達成に向けた取り組みの可視化の工夫を今後期待したい。	A

※評価区分は、S「期待以上」、A「期待どおり」、B「概ね期待どおり」、C「期待に満たない」の4段階

4. 事業の分析・次期改善点等(二次評価後に議会で記入)

参加者に年齢や性別の偏りがあり、参加者数も減少傾向であることから、今後は新しい層へのアプローチを検討する必要がある。また、報告会で参加者から聴取した意見を課題として抽出し、解決に向けてどう取り組んでいくかが事業の目的なので、目的達成に向けた取り組みの可視化(見える化)をすることも必要である。